

## 第1回

### 一宮市都市計画マスタープラン・立地適正化計画改定委員会

#### 【開催日時】

令和5年7月24日（月曜日） 10:00～11:45

#### 【開催場所】

一宮市役所本庁舎11階 1101・1102会議室

#### 【出席者名簿】

別紙参照

#### 【傍聴人】

0名

#### 【議事内容】

##### 1. 開催挨拶

##### 2. 委員の紹介

##### 3. 委員長挨拶

都市計画マスタープランではまちの成長を、立地適正化計画では折りたたんでいくまちづくりの両方を考えなければならない時代になった。その中で住みやすいまち、持続可能なまち追求していきたい。

##### 4. 委員長職務代理者の指名

##### 5. 議事「都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の改定について」（事務局）

#### ■都市計画マスタープラン及び立地適正化計画の概要について

○意見なし

#### ■都市計画マスタープラン改定に向けた現況と課題の整理について

○⑤災害などに対する安全・安心の確保の現況に健康障害と書かれているが、健康障害とはどのようなことか。

⇒浸水が3日間以上続くことが想定される地域では、睡眠がとれない又は食糧不足により健康に影響を及ぼすことが考えられるため、健康障害の発生の恐れがあると表現している。

○①人口の集約による地域コミュニティの維持に将来人口推計の図があるが、将来人口についてかなり危機感を持っている。2020年では生産年齢人口が60%程度となっているが、病気などの理由で働けない人や学生も含まれる。併せて、子育て世代では子育てと同時に親の介護も行っており、既に大変な状況だが、これが2045年になると年少人口と老年人口あわせて47.4%となり現状よりもさらに悪化する。こういった状況から、データをもう少し細かく分析する必要があると思う。

⇒国立社会保障・人口問題研究所のデータを再度確認し、細分化、分析を検討する。

○⑥豊かな自然や農地、公園・緑地の保全・活用にある緑被率の変化の図について、ここでいう緑被率とは自然地の割合で、自然地のうち、農用地が減っているということを示しているという理解で良いか。

⇒その通りである。図の名称等の表現は検討する。

○⑦環境負荷の少ない都市構造の形成において、ゼロカーボンシティの宣言をしたということで、公共交通利用促進だけではなく、スマート IC 等周辺の土地利用や都市構造の変化も含めた CO2 の削減や、2050 年までに一宮市ではどのようにゼロカーボンシティを達成できるのか等を記載した方が良い。環境負荷の少ない都市構造というテーマであれば、環境負荷の現況を示した方が良いのではないかと。

⇒担当課と相談しながら、データの検討と併せて、表現の追加検討をする。

○産業界においても環境負荷の低減を図る必要があると思う。記載を検討いただきたい。

○同じく⑦環境負荷の少ない都市構造の形成の市内主要駅の 1 日あたり乗車人員の図において、2020 年で下がった状態となっている。今後の展望について関係団体の予測を伺いたい。

・愛知県では乗車人員が少しずつ増えてきているため、だんだんと元のような世の中になるのではないかと考えている。

・バスの乗車人員は令和元年度と比較して 9 割ほどに戻ってはいるが、生活様式の変化に伴い、コロナ前と同様に戻るという予測はしていない。

○乗車人員の増加が期待できない中で、環境負荷の少ない都市構造について考えていかなければならない。

○愛知県より 3 点お願いがある。1 点目は、改定において、県が定める都市計画区域マスタープランに即して進めていただきたい。2 点目、広域的な施策等を定める場合には周囲の市町村とあらかじめ調整を行ってほしい。3 点目、防災に関して、今年 5 月に盛土規制法が施行された。安全安心なまちづくりを進めるという観点で、盛土規制について都市計画マスタープラン、立地適正化計画へ記載を検討いただきたい。

⇒1 点目について、県の方針に従い改定を進める。2 点目については、必要に応じて周辺市町村と調整しながら進める。3 点目の盛土規制については、今後、方針等の議論を進めていく中でご検討いただく。

#### ■立地適正化計画改定に向けた現況と課題の整理について

○(1) 人口の高齢化率の図において、市街化調整区域において高齢化率が増加とあるが、長生きしているということではないか。

⇒今回は部分改定であり、現行計画の図に対してのデータの更新となるため、このデータをもって高齢者の年齢構成を比較として示すことはできない。

○(1) 人口の課題において、生産年齢人口の増加を図る必要があるとしているが、大きな企業を誘致することにより生産年齢人口の移住等を促進はできないか。

⇒都市計画マスタープランでも産業拠点として位置づけている一宮稲沢北インターチェンジ周辺で、物流施設の検討をしている。

○物流施設の検討をしているということだが、前の議事、都市計画マスタープラン改定に向けた現況と課題の整理の④産業構造の変化への対応の製造品出荷額等の推移の図では物流が示されていない。製造業のみの記載としているが、何か意図があるのか。

⇒現行計画と現時点でのデータの対比として示している。該当の図は製造品のみ示したものとなっている。製造品以外の数値に関しては、新規追加する市内総生産の推移に含まれる。

○(1)人口の人口比率を示した図について、世代別人口を過去、現在、将来と分けて示した方が分かりやすいのではないか。立地適正化計画の施策などを検討する上でも、データとして参考にしやすいものではないか。

⇒この図のメッシュデータは国勢調査が基となっており、現時点では年齢別のデータが公表されていないため、図の作成は難しい。

○国立社会保障・人口問題研究所の推計値は、どのような単位で推計されているのか。また詳細なデータが公表されている場合、その図化はできないのか。

⇒500mメッシュ単位で推計されている。図化については検討する。

○立地適正化計画では居住や都市機能を誘導することが重要である。移動の経緯が評価指標としてあった方がよい。中間評価をするという意味では、年代別人口の移動や変化がどこで起きているかなどが分かるとよい。各誘導区域を設定する材料として、年齢別地域別の分析があると良い。

⇒本改定の際に対応させていただく。

○中間評価として届出制度での誘導の成果も図として示せるとよい。

⇒居住誘導区域に関する届出は定期的にあるが、都市機能誘導区域については示せるほど実績がないため、今回の部分改定で公表できるデータは揃っていない。本改定の際に示せるよう検討したい。

○中間評価における市民アンケート調査について、公共交通網についての質問をしているが、公共交通の利用者アンケートでは評価できないか。

⇒この目標値は公共交通計画の目標値と整合を取っており、当初設定した目標値との比較のため同様の方法で評価を行いたい。

○先程、都市計画マスタープラン改定の④産業構造の変化への対応において、本市の広い交通体系を活かして交流人口の拡大を図るとあるが、例えば、138タワーに行く際、レクリエーション道具の貸出しが豊富であれば手持ちの荷物も減るため、バスを利用すると思う。

⇒ここでは市外来訪者も含めた広域的な交流を想定している。

○観光施設には、どこからどの手段で移動しているのかも分析できると良いと思う。

○防災指針について、防災と減災の違いはあるか。

⇒防災は災害自体が起こらない対策を考えるもの、減災はある程度の災害リスクを許容して被害を最小限に抑える方策を考えるもの、と考えている。

○地震が起きても人が死ななければ災害ではない、という定義もある。防災・減災という言葉を使うならば、わかりやすい説明を加えたほうが良い。

⇒：事務局回答

6. 今後の改定スケジュール

○意見なし

閉会